教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　作成様式

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
(3) 諸地域世界の結合と変容	アジアの反映とヨーロッパの拡大を背景に、諸地域世界の結合が一層進展したこととともに、主権国家体制を整え工業化を達成したヨーロッパの進出により、世界の構造化が進み、社会の変容が促されたことを理解させる。 ア　アジア諸地域の繁栄と日本 西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向、明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係を扱い、16 世紀から 18 世紀までのアジア諸地域の特質とその中での日本の位置付けを理解させる。 イ　ヨーロッパの拡大と大西洋世界 ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立、世界各地への進出と大西洋世界の形成を扱い、16 世紀から 18 世紀までのヨーロッパ世界の特質とアメリカ・アフリカとの関係を理解させる。	[西アジア・南アジアのイスラーム諸帝国や東南アジア海域の動向] ・オスマン・ムガルのイスラーム諸帝国は、皇帝権と官僚制を発達させる一方で、非ムスリムには柔軟な統治を行ったことを知る。 ・東南アジア島嶼(しょ)部における 16 世紀の香辛料貿易と、17 世紀後半以降のヨーロッパの支配の進行、大陸部の農業国家の中国や琉球などとの交易・交流について知る。 [明・清帝国と日本や朝鮮などとの関係] ・明の朝貢（＝冊封）体制と、北虜南倭への対応を知る。 ・16 世紀以降、交易の利権をめぐる抗争の中で女真による清帝国の建設と、日本の朝鮮出兵があったことを知る。 [ルネサンス、宗教改革、主権国家体制の成立] ・ルネサンスが人間性の解放を求め、個性を尊重しようとする文化運動で、イタリアからヨーロッパ各地に広がったことを知る。 ・カトリック教会を批判する宗教改革の運動が、ドイツからヨーロッパ各地に広がったことを知る。 ・17 世紀には、主権国家体制が形成され、オランダ･イギリス･フランスなどの国々が有力となったことを知る。 [世界各地への進出と大西洋世界の形成] ・15 世紀後半以降のアジア･アメリカ･アフリカに対するヨーロッパの対外進出とその影響について知る。 ・17･18 世紀に、オランダ･イギリス･フランスなどが世界の諸地域に進出し、重商主義に基づく経済活動と植民地争奪戦争を展開したことを知る。 ・ヨーロッパ、西アフリカ、アメリカを結ぶ三角貿易が発達し、西ヨーロッパを中心とする大陸間分業体制が確立したことを知る。 [17～18 世紀のヨーロッパ文化]

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　作成様式

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
		・合理主義、経験主義を背景とした科学革命、主権国家体制を背景とした国際法、貴族社会を背景としたバロックやロココの芸術などについて知る。
	ウ　産業社会と国民国家の形成 産業革命、フランス革命、アメリカ諸国の独立など、18 世紀後半から 19 世紀までのヨーロッパ・アメリカの経済的、政治的変革を扱い、産業社会と国民国家の形成を理解させる。	[産業革命] ・　イギリス産業革命における世界的な背景や繊維部門の技術革新、交通革命、産業資本主義の確立を知るとともに、労働運動や社会主義思想が生まれたことを知る。 [フランス革命、アメリカ諸国の独立] ・18 世紀における経済的変化や啓蒙思想を背景に、アメリカ独立革命、フランス革命、ラテンアメリカ諸国の独立が相互に関連をもちながら起こり、その結果として西ヨーロッパとアメリカ合衆国に近代民主主義社会の基礎が成立したことを知る。 ［19 世紀のヨーロッパ･アメリカの経済的、政治的変革］ ・ウィーン体制下で自由主義・国民主義運動が拡大し、イタリアやドイツでは国民国家の形成が促されたが、ロシアやオーストリアでは、皇帝主導の近代的改革に限界があったことを知る。 ・アメリカ南北戦争と、その後の奴隷制、人種・民族問題と、ラテンアメリカ諸国の状況を知る。
	エ　世界市場の形成と日本 世界市場の形成、ヨーロッパ諸国のアジア進出、オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革を扱い、19 世紀のアジアの特質とその中での日本の位置付けを理解させる。	[世界市場の形成とヨーロッパ諸国のアジア進出] ・イギリス自由貿易と、保護貿易国が対抗して市場の拡大を目指し諸地域に進出した結果、アジア諸国は伝統的な手工業や農村経済が打撃を受け、国際的分業体制に組み込まれていったことを知る。 [オスマン、ムガル、清帝国及び日本などアジア諸国の動揺と改革] ・オスマン帝国が国内の民族･宗教的対立とヨーロッパ諸国の干渉で衰退していったことと一時的な改革が行われたことを知る。 ・インドでは、イギリスによる植民地化が進み、インド大反乱後にムガル帝国が滅亡し、イギリス支配下でイ

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　作成様式

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
(4) 地球世界の到来		ンド帝国が成立したことを知る。 ・東南アジアではオランダ･イギリス･フランスによる植民地化が進み、タイのみが独立を維持していたことを知る。 ・中国においては、イギリスを先頭とするヨーロッパ諸国の進出が強まり、アヘン戦争･アロー戦争などを通じて半植民地化が進行する中で、太平天国のような民族運動や洋務運動のような近代化運動が起きたことを知る。 ・日本が、開国後明治維新を経て、ヨーロッパ文明の導入と近代化を進めたことを知る。
	オ　資料からよみとく歴史の世界 主題を設定し、その時代の資料を選択して、資料の内容をまとめたり、その意図やねらいを推測したり、資料への疑問を提起したりするなどの活動を通して、資料を多面的・多角的に考察し、よみとく技能を習得させる。	・設定した主題にかかわる文字資料や、絵画、風刺画、写真などの図像資料を取り上げ、内容、糸、狙いなどについて考察し、その時代の人々が自分たちの時代や社会をどうとらえ、どう表現しようとしたかを理解することができる。
	科学技術の発達や生産力の著しい発展を背景に、世界は地球規模で一体化し、二度の世界大戦や冷戦を経て相互依存を一層強めたことを理解させる。また、今日の人類が直面する課題を歴史的観点から考察させ、21 世紀の世界について展望させる。	[科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展] ・19 世紀後期の科学技術の発達が、欧米諸国で第二次産業革命の進展を促し、企業による寡占化と資本の集中･集積が進んだことを知る。
	ア　帝国主義と社会の変容 科学技術の発達、企業・国家の巨大化、国民統合の進展、帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応、国際的な移民の増加などを理解させ、19 世紀後期から 20 世紀初期までの世界の動向と社会の特質について考察させる。	[帝国主義諸国の抗争とアジア・アフリカの対応] ・欧米諸国が工業製品や資本の輸出先を求めて、世界各地に進出し、植民地や勢力圏の獲得競争を展開したことを知る。 ・欧米諸国の支配を受けたアジア・アフリカで民族意識が覚醒し、マフディー派の抵抗、義和団、インド国民会議派の運動など、ナショナリズムの運動が起こったことを知る。 ・日本では日清戦争、日露戦争を経て近代産業が成立し、不平等条約が改正されたことを知る。 [国際的な移民の増加] ・19 世紀後半、ヨーロッパからアメリカやオセアニアへの大規模な移住が見られたことや、中国や南アジア

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
		などから移民労働者が大量に世界の労働力市場に供給されたことを知る。
	イ　二つの世界大戦と大衆社会の出現 総力戦としての二つの世界大戦、ロシア革命とソヴィエト連邦の成立、大衆社会の出現とファシズム、世界恐慌と資本主義の変容、アジア・アフリカの民族運動などを理解させ、20 世紀前半の世界の動向と社会の特質について考察させる。	[第一次世界大戦] ・第一次世界大戦の勃発に至る経緯を知るとともに、第一次世界大戦が総力戦としての性格をもっていたことを知る。 [ロシア革命とソヴィエト連邦の成立] ・ロシア革命の過程と、それによって成立したソヴィエト連邦が世界に与えた影響について知る。 [大衆社会の出現とファシズム] ・大戦後に国際連盟やヴェルサイユ･ワシントン体制が成立し、大戦前と国際秩序が変化したことを知る。 ・戦間期において、アメリカ合衆国が国際的影響力を急速に増し、その大量生産･大量消費の生活様式が欧米諸国や日本に波及し、大衆社会が出現したことを知る。 ・大衆の政治参加がイタリア・ドイツでファシズムを生むなど、当時の国家や社会、文化に大きな影響を与えたことや同時期に日本の軍部の台頭やソヴィエト連邦におけるスターリンの独裁が生じたことを知る。 [第一次世界大戦後のアジア・アフリカの情勢] ・第一次世界大戦後に、中国での五･四運動、インドでのガンディーや国民会議派による運動、トルコでのトルコ革命など大衆的基盤をもつ民族運動が発生したことを知る。 [世界恐慌とその後の世界情勢] ・世界恐慌が資本主義諸国に深刻な打撃を与え、アメリカ合衆国のニューディール政策やイギリスのブロック経済政策など、各国で様々な恐慌対策がとられたことを知る。 ・世界恐慌の深刻な影響を受けた日本･ドイツ･イタリ

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
		アが満州事変や日中戦争、ラインラント進駐、エチオピア侵攻を起こしたことを知る。 ・世界恐慌の中で、ソヴィエト連邦が五カ年計画の下、工業生産を増大させていったことを知る。 [第二次世界大戦] ・第二次世界大戦について、ヨーロッパの戦争から始まり、太平洋地域に戦争が拡大し、戦場が広域化していった過程、核兵器がもたらした甚大な被害、戦争の様相が多数の民間人を含む膨大な犠牲をもたらしたことを知る。
	ウ　米ソ冷戦と第三世界 米ソ両陣営による冷戦の展開、戦後の復興と経済発展、アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題、平和共存の模索などを理解させ、第二次世界大戦後から1960年代までの世界の動向について考察させる。	[米ソ両陣営による冷戦の展開] ・国際連盟に代わり国際連合が結成され、また敗戦国の処理が進められる中で戦後の世界秩序が形成されていったことを知る。 ・第二次世界大戦後、東欧諸国に社会主義政権が誕生しソヴィエト連邦の影響力が拡大したのに対し、アメリカ合衆国が西欧諸国への経済援助を強化して「対ソ封じ込め」を図ったことを知る。 ・　米ソ両国が核兵器の力を背景にそれぞれ経済協力と集団安全保障の体制を樹立して自陣営の強化を図る中で、対立関係が非ヨーロッパ世界にも拡大し、朝鮮戦争など様々な紛争を引き起こしたことを知る。 ・ [戦後の復興と経済発展] ・西欧諸国や日本で、アメリカ合衆国の支援と安定した国際貿易体制に支えられ経済復興を成し遂げたことや、その後西ドイツと日本では高い経済成長が見られたことを知る。 [アジア・アフリカ諸国の独立とその後の課題] ・第二次世界大戦後、民族独立運動がアジアからアフリカへと段階的に波及し、1960年代には植民地の大半が独立を達成したことを知る。 ・アジア・アフリカ諸国が国際社会において第三世界として発言力を増すとともに、平和共存を模索し、植民地支配の終焉（えん）に大きな役割を果たしたことを

教科：地理歴史　科目：世界史Ｂ　　作成様式

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
(5) 地球世界の到来		知る。 ・アジア・アフリカ諸国の経済的自立は容易ではなく、先進諸国との経済格差が拡大し、南北問題として認識されるようになったことを知る。 [平和共存の模索] ・ヴェトナム戦争などでアメリカ合衆国の経済状況が悪化する中、EC 諸国や日本の経済が急成長し、また中ソ対立の深刻化やチェコスロヴァキアの改革に対するソヴィエト連邦などの軍事介入により、両陣営内での米ソの指導力にかげりが見え始め、国際政治は多極化に向かったことを知る。
	エ　グローバル化した世界と日本 市場経済のグローバル化とアジア経済の成長、冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体、地域統合の進展、知識基盤社会への移行、地域紛争の頻発、環境や資源・エネルギーをめぐる問題などを理解させ、1970 年代以降の世界と日本の動向及び社会の特質について考察させる。	[市場経済のグローバル化とアジア経済の成長] ・1970 年代に入り、アメリカ合衆国主導の国際通貨体制が瓦解して変動相場制に移行し、二度の石油危機が欧米諸国や日本に大きな打撃を与えたことを知る。 ・1980 年代以降、先進工業国が産業構造を転換し、途上国への工場移転を図る一方で、中国やアジアの新興工業地域が欧米諸国や日本から技術や資本を導入して輸出志向の工業化に乗り出し、急成長を遂げたことを知る。 [冷戦の終結とソヴィエト連邦の解体] ・社会主義計画経済の立ち遅れが明らかになり、東欧やアジアの社会主義国でも経済開放政策が採用され、市場経済の世界化が一層進んだことを知る。 ・ソヴィエト連邦では経済の行き詰まりを立て直すためペレストロイカを行ったが、経済状況は改善せず、むしろ東欧諸国の改革に拍車がかかり、1980 年代末には東欧諸国でも社会主義体制が崩壊し、冷戦が終結するとともに、ソヴィエト連邦が解体されたことを知る。 [地域統合の進展] ・冷戦終結後の国際経済の連携の動きの中で、EU や ASEAN など地域統合や地域協力を目指す動きが

教科：地理歷史　科目：世界史Ｂ　　作成様式

学習指導要領		都立片倉高校　学力スタンダード
		世界各地で進行していることを知る
	オ　資料を活用して探究する地球世界の課題 地球世界の課題に関する適切な主題を設定させ、歴史的観点から資料を活用して探究し、その成果を論述したり討論したりするなどの活動を通して、資料を活用し表現する技能を習得させるとともに、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望させる。	[地球的諸課題をめぐる問題] ・冷戦終結後に激化した旧ユーゴスラヴィア内戦、アフリカのソマリア内戦や、第二次世界大戦直後から続いているパレスチナ紛争などの地域紛争が世界各地で頻発していることを知る。 ・地球の温暖化や大気汚染、森林の消滅などの環境や資源･エネルギー問題が地球世界の切実な課題であることを知る。 ・地球世界の課題に関して設定した主題について、資料を用いて探求し、これからの世界と日本の在り方や世界の人々が協調し共存できる持続可能な社会の実現について展望することができる。